



平和と暮らしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
Tel 093-592-5000 FAX 093-571-4346

北九州市民の会

検索



WEB : <http://siminnokai.com>
e-mail : koe@siminnokai.com

志位委員長黒崎で演説 声をあげれば政治は変わる

6月24日(金)、黒崎駅で志位和夫演説会がひらかれました。最初に、来田時子・参院比例代表候補、まじま省三・参院福岡選挙区候補、にひそうへい・参院比例代表候補がそれぞれ訴えました。



右から、まじま候補、志位委員長、来田候補、にひ候補

志位委員長は、この間の党首討論での論戦の到達点を交えながら、平和の問題、暮らしと経済の問題をたっぷり演説。このなかで、核兵器禁止条約第1回締約国会議の「ウィーン宣言」の内容も紹介しつつ、会議に背を向けた岸田政権を批判。「日本共産党の躍進で核兵器禁止条約に参加する政府をつくろう」と呼びかけました。

物価高騰のなかで、消費税減税の要求にあれこれ理由をつけて冷たい態度をとる岸田首相に対し「人の痛みがわからない政治だ」と指摘。

他方、今年の総選挙で岸田首相は企業の男女賃金格差の公表に抵抗したが、政府が5月に公表を指示した事実を紹介し「声をあげれば政治は変えられる」と強調しました。戦前に他の政党が「大政翼賛会」に合流し侵略戦争を推進したのにたいし、日本共産党は命がけて反戦平和をつらぬいた唯一の政党だったことを、小林多喜二、野呂栄太郎、伊藤千代子ら党の先輩の名前も挙げて紹介。軍拡の大合唱に反対を貫いてこそ、人びとの命と暮らしをまもることができるのべ、日本共産党への支持を力強く訴えました。

参院選(7月10日投開票) 日本を危機から救う党大きく

参院選がきょう公示され、7月10日投開票に向け選挙戦の火ぶたが切られます。ロシアのウクライナ侵略という暴挙が続く中で、平和と戦争をめぐり各党の立場が問われる選挙です。暮らしを直撃している物価高騰から国民を守ることも焦眉の課題です。岸田文雄政権は、危機に乗じて大軍拡と改憲の加速を企てる一方、国民の苦難打開には有効な対策を示しません。岸田政権に「ノー」の審判を下し、希望が持てる新しい政治を切り開くために、日本共産党の躍進が極めて重要になっています。物価高騰から国民を守る

選挙公示直前のメディアの世論調査で、岸田内閣の支持率が低下しています。物価高対応への厳しい批判です。共同通信(20日付「東京」など)では79.6%が「対応が十分とは思わない」と回答し、「日経」(同日付)でも69%が「評価しない」と答えました。物価高騰のさなかに年金を削る冷たい姿勢にも怒りが渦巻きます。

岸田政権は国民の苦しみにあまりに冷淡です。小手先の対策に終始するばかりで、最も効果的な消費税減税には背を向けています。なにより、物価高の大本にあるアベノミクスの「異次元の金融緩和」を見直そうとしません。

日本共産党は、金融頼みの政策ではなく、实体经济をよくする政策への抜本的な転換を求めています。アベノミクスで大企業がためこんだ内部留保への課税などを通じて「賃金が上がる国」にする道を具体的に提起しています。これは日本経済全体の健全な成長にもつながります。日本共産党の勝利で「やさしく強い経済」を実現していくことが急がれます。(中略)

19日投票の東京都杉並区長選では、市民と野党が力を合わせてたたかった新人の岸本聡子さんが自公の推す現職を僅差で破って当選しました。悪政に対して声をあげれば政治は動きます。

日本の前途がかかった大切な参院選です。平和と憲法を壊す逆流と正面からたたかい、国民の苦難軽減のために尽力し、市民と野党の共闘の推進を目指す日本共産党を大きくしていただくことを心から呼びかけます。
(しんぶん赤旗主張)

平和をあきらめない北九州ネット定例アピール行動 気候変動問題に取り組むメンバーと連携

6月19日(日)、平和をあきらめない北九州ネットの定例アピール行動。本日も、小倉駅前と黒崎駅前の2ヶ所同時開催です。黒崎駅前のアピール行動には、気候変動問題に取り組むFridays For Future Fukuokaのメンバー二人が参加。それぞれ、選挙に行こうという呼びかけや、原発の問題などを訴えましたけど、「せっかく来たんやから、一回だけじゃあれなんで、もう一回訴える？」って聞きましたら「何回でもやりたいです！」と、やる気満々の返事。終わりの方でもう一回スピーチしました。いろんな話をしていて、今後もいろいろ連携してやれそうない雰囲気になりました。それにしても日曜日の黒崎駅前寂しい。北九州市の今後は僕らの天国になるのでしょうか。
(竹内俊一氏 FB より)



北九社保協通信

報告・資料集 2022年6月号
6月27日 事務局発行

「生保引下げは憲憲」熊本地裁での勝利判決をうけ、

元気に生保 & 年金裁判の宣伝行動を実施!

熊本地裁での「生保基準引き下げ取消訴訟」の画期的な勝利判決に勇気をもらい、「生保 & 年金裁判」を支援する会(いかなんか貧困・福岡)北九州の宣伝行動を5月30日(月)に実施しました。当日は生保の天候となり中止も検討しましたが、「熊本判決を力に訴えよう!」と生保会・年金者組合・北九社保協から総勢18名と多くの原告や支援者が参加。雨で署名やビラ配布は出来ませんでした。道行く市民に向かってスタンディングアピールを行いました。現在、福岡では地裁から高裁へと闘いの場を移し展開しています。



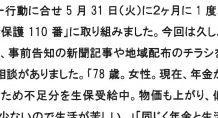
雨の中でも元気に宣伝行動(門司駅前)

反貧困九州ネット統一行動で「生保110番」を。

コロナ電話相談会は第14回目を実施。物価高騰が生活を直撃。



久しぶりにTV取材も入った生保110番



全国ニュース後、一斉に降り出した相談電話

反貧困九州ネット統一行動に合せ5月31日(火)に2ヶ月に1度、継続実施している「生活保護110番」に取り組みました。今回は久しぶりにTVニュースも流れ、事前告知の新聞記事や地域配布のチラシを見た方を含め17件の相談がありました。「78歳。女性。現在、年金が最低生活費に満たないため不足分を生保受給中。物価も上がり、毎額年金に加え保護費も少ないので生活が苦しい。」「同じく年金と生活保護を受給中の70歳。男性。せめて夏のクーラー代や冬期加算を増やしてほしい」といった物価高騰を受けての切実な相談が他にも多数寄せられました。また、「子供から援助を受けている70歳。女性。不況で収入が減って援助できなくなったとの連絡があり役所に生活保護申請に行く、子供がいたらダメと追い返された」さらに「精神障害で仕事ができないという50歳。男性。昨年12月に離婚。現在は障害年金のみで生活中。身内からも縁を切れ生保の相談に行ったが、3歳まで収入調査をすと言われ申請を断念した。」など、相変わらず深刻な相談の対応や扶養照会の手続きが後続しない役所の実態が浮き彫りとなりました。また、6月11日(土)にはコロナ相談会(第14回)を実施しました。福岡をはじめ九州・沖縄一円から16件の相談がありました。残念ながら地元でのマスコミ取材は無かったものの全国ニュース放映後に相談電話が殺到しました。やはりここでも物価上昇に伴う生活への影響や今後の不安に対する相談が多数を占めました。また、長引くコロナ禍で国の対応への不満や意見も出されました。

原水禁・平和行進小倉地区実行委員会ニュース (7月1日号)

7月19日(火)~21日(木) 平和行進 暑い折ですが、区間限定で歩きます!

- 7月19日(火) 戸畑コース(車は県営連車)
 - 16時00分 境川で、戸畑区実行委員会から行進を引き継ぎ、小倉北区に向けて行進出発。
 - 17時10分 中央図書館南芝生広場到着、到着集会して、17時30分解散。車は健和会駐車場へ【泊】
- 7月20日(水) 小倉南コース(車は県営連車)
 - 12時00分 狸山で行橋市実行委員会から「代表引き継ぎ」。
 - 14時00分 下曾根駅出発集会へ県営連車で宣伝しながら、市内を走行。随行車1台。
 - 16時30分 小倉民商事務所前行進出発 中央図書館前に向かう。
 - 17時50分 中央図書館南芝生広場・長崎の鐘前着(到着集会・歌声や各団体からの発言)車は、健和会駐車場へ【泊り】
- 7月21日(木) 門司コース(車は県営連車)
 - 9時10分 出発集会(北九州市役所正門前バス停付近)
 - 9時30分 行進出発~太陽の橋~野町公園・大阪町~10時10分砂津2丁目新幹線ガード下
 - 10時20分 行進出発~11時00分手向山到着、門司実行委員会に引き継ぎ



● 平和の波行動・・・8月6日(土)11時小倉駅前で行進行動します。
原水爆禁止世界大会・長崎大会
8月9日(火) オンラインで参加しましょう 10時:日本共産党門司小倉地区委員会2階
参加費:2,000円(世界大会の費用捻出のため費用負担をお願いします。)



* 問い合わせ先: 小倉地区実行委員会事務局
事務局長: 細川(健和会労組) 581・1864
事務局次長: 野瀬(市職労) 090・3418・5773

* 原爆写真展: 小倉地区平和委員会が、8月5日(金)~8月10日(水)まで、市立生涯学習総合センター1階ロビーで展示します。

東京 当選4氏 小池書記局長演説
公約実現・改憲ストップ全力

参院選の結果を受け、比例代表で当選した日本共産党の田村智子副委員長、仁比聡平、岩淵友各氏と東京選挙区で当選した山添拓氏は11日、小池晃書記局長とともに、東京・新宿駅前街頭演説しました。小池氏は4議席獲得に感謝を表明し、「民主主義を脅かすような動きが続くなか、党をつくって100年、自由と平和を貫いてきた共産党が頑張る時です。力を合わせてこの国の政治を変えていきましょう」と訴えました。



報告の後、聴衆の声援にこたえる(左から)小池晃書記局長と岩淵友、田村智子、山添拓、仁比聡平の各当選者=11日、東京・新宿駅西口

小池氏は、東京選挙区で山添氏が議席を獲得したことについて、「本当に幅広いみなさんに応援していただいたことが後押しになりました」と述べました。比例代表では、全国で361万8342票を獲得したと報告し、3議席の獲得にとどまったことについて、「目標を達成できなかったことは非常に残念です。教訓を引き出して、捲土(けんど)重来で頑張っていきます」と表明しました。

市民と野党の共闘では、沖縄選挙区で「オール沖縄」の伊波洋一氏が激戦を制したことは非常に大きな成果だと強調し、青森、長野選挙区でも野党が一本化した候補者が勝利したと報告。今後の市民と野党の共闘については、「本気の共闘で勝利していくことができるように、野党や市民連合のみなさんとも話し合いを続けていきます」と述べました。

7月11日 日本共産党中央委員会常任幹部会

7月10日投開票された参議院選挙で、日本共産党にご支持をいただいた有権者のみなさん、酷暑のもとで奮闘していただいた支持者、後援会員、サポーター、党員のみなさんに心からの感謝を申し上げます。

(1) 日本共産党は、選挙区選挙では、唯一の現職区だった東京選挙区で、山添拓候補の再選をかちとることができました。東京の党と後援会の奮闘、全国からの支援によって、宝の議席を守り抜いたことは、大きな喜びです。

若い世代、市民のボランティア、サポーターのみなさんが、その創意性・自発性を発揮してこのたたかいに参加し、山添候補が無党派層のなかで最も多くの得票を獲得したことも、今後生きるとりくみだと考えます。

沖縄選挙区で、激戦を制して「オール沖縄」の伊波洋一候補の議席を守り抜くことができたことは、沖縄の今後を展望しても重要な勝利です。

(2) 比例代表選挙で、日本共産党は、「650万票、10%以上、5議席絶対確保」を目標にたたかいましたが、361万8千票、得票率68%にとどまり、改選5議席から3議席への後退という、たいへんに残念な結果となりました。常任幹部会として、こうした結果となったことに対して、責任を深く痛感しています。

常任幹部会の指導責任の問題として、次の2つの点を率直にのべたいと思います。

一つは、全国のみなさんに大奮闘していただきましたが、勝利に必要な規模と速度に運動を広げ切るうえでの指導的イニシアチブを十分に果たせなかったということです。参議院選挙で、わが党がとりくんだ対話の最終の到達点は860万にとどまり、支持拡大の到達点は650万と支持拡大目標の47%にとどまりました。総選挙の最終の到達点と比較しても、対話・支持拡大とも8割台にとどまりました。

いま一つは、その根本にある自力をつけるとりくみです。昨年11月の4中総決定で、私たちは、党員拡大でも、「しんぶん赤旗」読者拡大でも、前回参院選時の回復・突破を目標に掲げて奮闘しました。しかし、党勢は、前回参院選時比で、党員92.5%、日刊紙読者92.0%、日曜版読者91.4%にとどまりました。世代的継承のとりくみや、「綱領を学びながらたたかう」という点での新たな努力も行われましたが、なお、自力をつけるとりく

みは、質量ともに、その立ち遅れを打開できていません。

私たちは、今回の参院選の最大の教訓は、ここにあると考えています。どうやってこの弱点を打開していくか。全党のみなさんの知恵と経験に学びたいと思います。どうか率直なご意見・ご提案をお寄せください。私たちは、全党のみなさんと力をあわせて、強く大きな党をつくるために、新たな決意で全力をつくします。

選挙戦のなかで、若い世代のみなさんが、大きな力を発揮し、生き生きと活動に参加したことは大きな希望です。

全国のみなさん。今回の悔しい結果を新たなバネとして、どんな情勢のもとでも前進できる質量ともに強い党をつくろうではありませんか。

(3) 選挙戦での日本共産党の政策的な訴えは、国民の願いに立脚したものであり、自民・公明・維新など平和と暮らしを壊す「翼賛勢力」を追い詰め、訴えが伝わったところでは共感が広がりました。

平和をめぐる「軍事費2倍」「敵基地攻撃能力」の保有、「核抑止力」強化、「9条を変えろ」などの大合唱に正面から立ち向かい、憲法9条を生かして東アジアに平和をつくる「外交ビジョン」を対案として訴えてきたかいました。

暮らしの問題では、物価高騰からどうやって暮らしを守るかが大きな争点になるも、新自由主義を転換し「やさしく強い経済」をつくる5つの提案を掲げ、消費税5%への減税・インボイスの中止、大企業の内部留保への時限的な課税による賃上げの促進、年金削減中止・学費半額・給食費ゼロ、気候危機打開、ジェンダー平等などの一連の政策に対して、期待が広がりました。

わが党が訴えた政策は、どれも国民の切実な願いであり、国政の熱い焦点となるものばかりです。公約実現のために、全力をあげましょう。

とりわけ9条改憲を許さないたたかいは、待たなしの重大課題となっています。岸田首相は選挙後、「できるだけ早く(改憲)発議をしたい」と公言しました。党創立100年、平和を守り抜く党の真価を発揮すべきときです。このたたかいの帰趨は、国民世論にかかっています。海外での武力行使への一切の制約を取り払う9条改憲を許すな的一点で、国民的な大運動をおこし、9条改憲に反対する国民的多数派をつくる新たなたたかいに立ち上がることを、心から呼びかけます。

あらゆる分野で国民の願いを実現するたたかいの先頭にたち、それと一体に、強く大きな党をつくり、次の機会には必ず雪辱を果たそうではありませんか。

このまますすめて、いいのでしょうか?

「門司港複合公共施設の建設計画」

「浸水被害」恐れ地域に
門司区役所の建設…
(災害時の拠点)



昭和28年6月災害時の門司市役所前の救護物資の搬入(左)と市民の声を聴く街頭録音(右) 著書「昭和28年6月28日にあったこと」より

疑問だらけの計画



北九州市は、門司港地区にある門司区役所、港湾空港局、市民会館、勤労青少年ホーム、門司生涯学習センター、図書館施設を門司港駅周辺に集約する複合公共施設の建設をすすめています。この地域は3m~5mの浸水災害の恐れのある地域です。そこに災害時の拠点である区役所を建設する計画で、国や全国の自治体がすすめている災害対策に逆行するものです。

また、当初計画から3度にわたって施設配置が変更されました。さらに当初建設用地はJR九州からの借地で年間3000万円かかるとしていましたが、今度は土地を買い上げへ変更等(9億7000万円)、過去に例のないほどの迷走ぶりです。市の担当者から説明を行っていたが、意見交換をします。質問や意見・要望などを出しあいましょう。

市の担当者による説明会を行います

門司港地区複合公共施設建設計画

どなたでも参加できます

出前講演 7月23日(土) 午後2時
門司生涯学習センター(門司港鎮西橋)
講演 建築都市局モデルプロジェクト推進課長

- 第1部 市からの説明と質疑応答(約1時間)
- 第2部 講演の感想と今後の課題の意見交換(約1時間)